



香川県の共同受注農作業による 農業と福祉の連携について

香川県社会就労センター協議会
太田 聖臣

本日の内容

- ・ 香川県社会就労センター協議会について
- ・ 農業分野への参入のきっかけ
- ・ 障害者の農作業支援の取組みについて
- ・ これまでの取組み実績
- ・ 作業支援活用による農業者のメリットや課題点
- ・ 共同受注の農作業のコンセプト



香川県社会就労センター協議会について



昭和58年に県内の障害者・知的障害者施設を中心に、香川県授産施設協議会として発足し、県内の約80%の授産施設が加盟している団体で、障害の種別を問わず「障害者の働く」ことを支援しています。平成22年NPOの法人格を取り現在は約85施設が加盟しています。（ちなみに農作業には約24施設が参加しています。





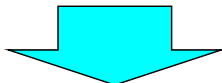
【農業分野への参入のきっかけ】



現状

・ **多くの障害者施設**では、自身の農地や農地を借り受けるなどして、農業に取り組んでいるが、ほとんどの施設は農業の専門的なノウハウを有しておらず、規模も小さい。（※大きな需要があっても、単独施設では受けられない）

・ **一方、農業者の高齢化が進み、後継者が少なくなっている中**、農作業が重労働であることや、農繁期に農作業が集中することで、経営規模の拡大が困難であるなどの理由により、作付面積の減少から遊休農地が拡大しており、本県の農産物の生産量の維持・拡大は困難な状況にある。



そこで

・ 農家（生産者）の労働力不足解消のための一手段として、施設等の障害者（利用者）を農作業に派遣する仕組みである、「共同受注農作業」で対応していく取り組みのシステムを確立するのがスキームと考えた。

（この「共同受注農作業」のシステムを構築することで、これまで単独では難しかった種類の作業や、大規模な作業の依頼を受けることができると考えた）

・ 農家（生産者）と(NPO)香川県社会就労センター協議会が契約(請負)し、協議会のメンバーである施設に作業参加を募集・依頼して利用者には作業工賃として還元する。（※基本的には、作業工賃は出来高払いを旨とする。）

障害者の農作業支援の取組みについて

障害者施設

農業者

- ・ 受託作業の減少、自主製品の販売不振。収益減少、作業賃金の低下。
- ・ 室内の作業が多くストレスが溜まる。
(内職的な単調な作業が多くストレスが溜まるなど)

- ・ 高齢化・後継者不足による労働力不足。栽培面積の減少。
- ・ 重量作物の栽培減少。
玉葱、キャベツなどの重量野菜から
ブロッコリーなどの軽量作物へ作付転換。

県障害福祉課

JA生産者部会・JA

県農業生産流通課

NPO法人 香川県社会就労センター協議会、同協議会会員施設

支援による効果

障害者施設

農業者

- ・ 収入の向上。（工賃増額）
- ・ 農業振興への貢献。
- ・ 農作業（汗をかく喜び）、農作物生産への関わりの喜び。
- ・ 農家からの感謝。

障害者による農作業支援

- ・ 労働力不足解消。
品質向上、重労働の解消
- ・ 作付け拡大等生産振興。
- ・ 社会福祉への貢献。



作業前の打ち合わせ風景



一定間隔で玉ねぎの苗を作付け



玉ねぎの収穫





ニンニクのマルチ芽だし



にんにくの収穫



キャベツの中耕・土寄せ作業



びわの袋がけ作業



採種玉ねぎのネギ坊主の収穫



TV局の取材風景



傘を使って玉ねぎの苗を植える
穴をあけるアイディア

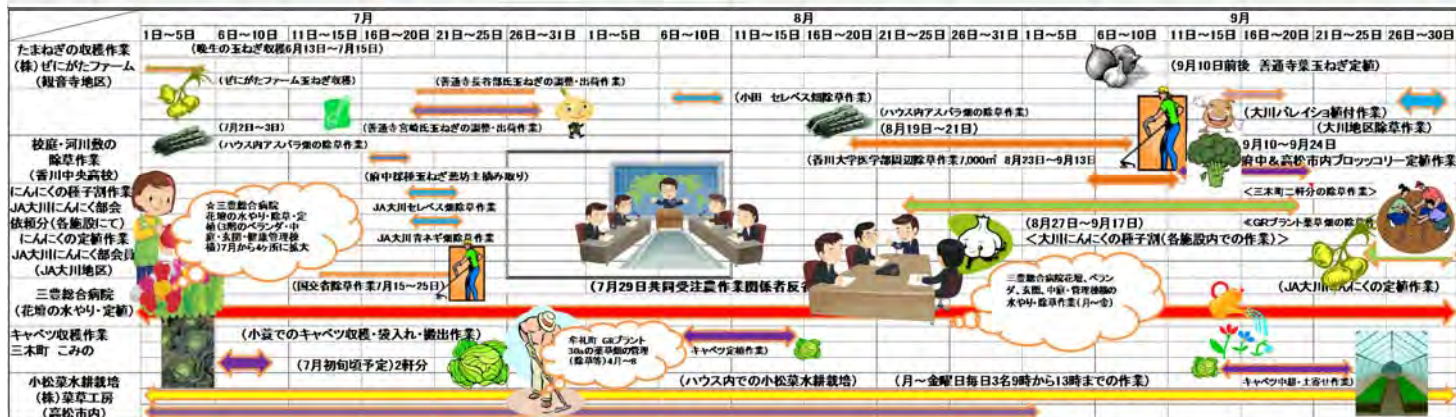
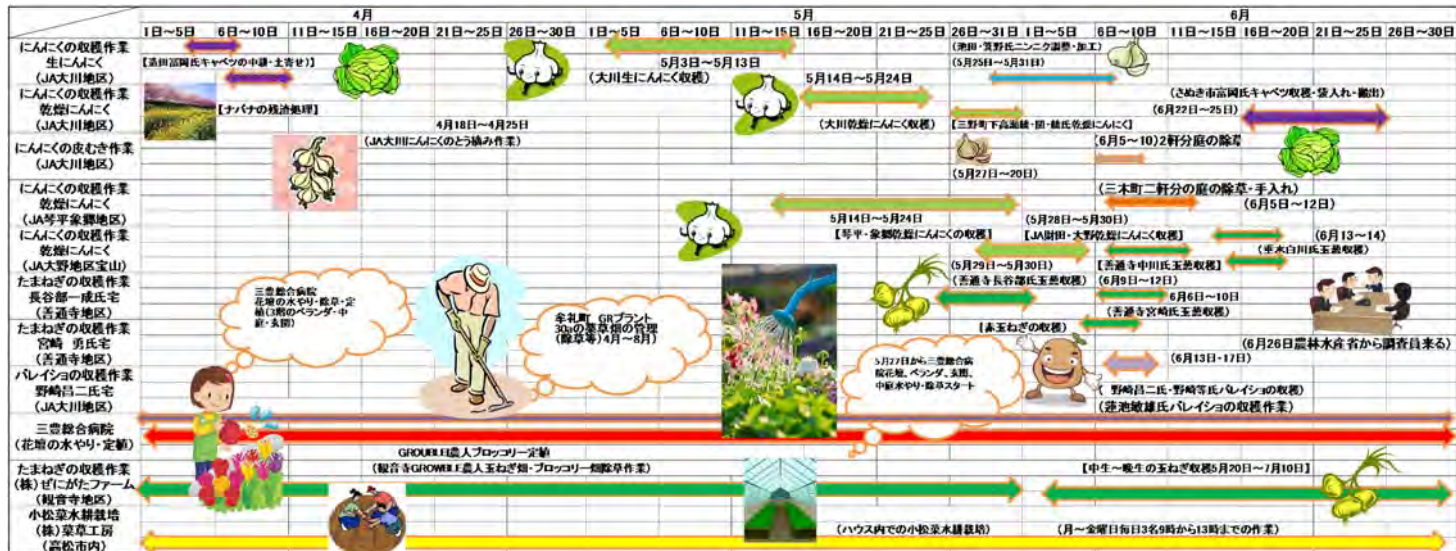


作業終了後の達成感に満ちた顔



休憩中の他の施設の人とのふれあい

H26年度 共同受注（農作業）年間スケジュール



H26年度 共同受注（農作業）年間スケジュール



これまでの取組み実績

青字：試行、赤字：有料支援

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
作業内容	イチゴ収穫作業	にんにく収穫	にんにく収穫	にんにく収穫、種子割り、植付け、マルチからの芽だし	にんにくトウ摘み、収穫、種子割り、植付け、マルチからの芽だし	にんにくトウ摘み、収穫、種子割り、植付け、マルチからの芽だし
	イチゴ育苗ポット土入れ、収穫後の株除去	温州みかん収穫	レタストーンネル支柱挿し	たまねぎ収穫、植付け	たまねぎ収穫 青ねぎ定植 パレイショ収穫	たまねぎ定植・収穫 青ねぎ定植 パレイショ収穫
	中晩柑(甘夏)の収穫	黒大豆の選別	-	青ねぎ除草、収穫	ビワ袋掛け	ブロッコリー定植
	-	-	-	パレイショ収穫	キャベツ除草、収穫(計量、袋詰、配送)	キャベツ除草、収穫(計量、袋詰、配送)
	-	-	-	レタス収穫	小松菜水耕栽培出荷調整作業	小松菜水耕栽培出荷調整作業
	-	-	-	ビワ種取り	レタス定植、収穫	レタス定植、収穫
	-	-	-	にんじん根取り、根洗い	里芋除草	里芋除草・収穫 薬草畑の管理
実施面積	-	温州みかん作業 (425コンテナ)	にんにく作業 (93.8a)	全作業合計 (999.7a)	全作業合計 (2,677a)	全作業合計 (3,338a)
延べ作業人数	27名	160名	106名	1,752名	5,224名	7,704名

工賃の実績

項目	作業人数	延べ参加 施設数	利用者 (人)	作業量 (a)	作業工賃 (千円)
23年度	1,752	286	1,283	1,000	2,478
24年度	5,224	721	3,988	2,677	7,082
25年度	7,704	1,233	5,936	3,338	9,953
昨年対比	147.5%	171.0%	148.8%	124.7%	140.5%



～ 作業支援活用による農業者のメリットや課題点 ～

● 作業支援活用によるメリット

- ・ 面積による出来高払い。
委託農作業に來た人数に関係なく出来高払い。
- ・ 仕事が早い。
共同受注による作業なので、多施設の連携で作業を実施する。
作業人数も多く短期間で作業が終了する。
- ・ コンテナ等による運搬も可能。
出荷数量が多い、たまねぎ等の重量作物でも、台車等準備していただければ、圃場外への搬出も実施。

● 課題点

- ・ 基本、土日祭日は休み。（別途、繁忙期は相談対応）
- ・ 生育の良否や病虫害の有無を判断しての管理作業など。
- ・ 雨天により作業中止の場合の代替作業の確保。

● その他

- ・ トイレ、駐車場、休憩場所の確保。（依頼者側で準備）
- ・ 交通費等の支給など。

～ 作業参加への心構え ～

- ☆ 共同受注農作業は目的意識を持って参加しよう。
- ☆ 作業にはバリアーを作らない。（出来ないことはない。出来る仕組みを考える努力をしよう）
- ☆ これまでは、従来の考えにとらわれない。
- ☆ 最初から好結果を求めない。
- ☆ 他の施設と作業するので、お互いに譲り合い、協力し合う。

～ 共同受注の農作業のコンセプト ～

- ・ 工賃の増額を図る
- ・ 施設同士・利用者同士・職員同士の交流を図る（新たな施設運営へ繋がる）
- ・ 生産者・地域住民・JA・行政職員との交流を図る（障害者への正しい理解を得る）
- ・ 生産意欲の向上（頑張ってもう1a収穫しよう、もう5ケース収穫しよう）
- ・ 可能性の発見（他にも自分たちにできることがあるのでは）
- ・ 植え育てる楽しさ、収穫の喜びを得る
- ・ 植え育てる喜び、収穫の楽しさを得る
- ・ 施設内でのマンネリ化、ストレスの解消（施設外就労をすることにより、利用者のリフレッシュを図れる）
- ・ 自立への登竜門（農業法人や生産企業等への就職へ）
- ・ 依頼者からの感謝を得る（受けた仕事はきっちり、最後の確認作業までやり通す）
- ・ 特別支援学校の実習の場

～ 工賃の増額をめざし、依頼者から感謝の気持ちを受ける ～

